

石巻市立青葉中学校

I 学校所在地域の災害特性および地域連携に係る現状等

- 1 2011年東日本大震災：学区の4地区のうち、海に近い2地区は津波が押し寄せて被害程度が重く、他2地区はほとんど被害がなかった。学校は浸水せず、建物に被害はなかった。大震災当日から10月中旬まで避難所となり、最大約4,500名が宿泊した。当日は、午前中卒業式が終わり全員下校していた。津波による死亡生徒は12名であった。
- 2 想定すべきハザード（近年の経験及び石巻市ハザードマップ等より）
 - (1) 学区の地震における木造建物全壊率の危険度は1となっている。液状化の危険性はない。
 - (2) 学区の土砂災害の危険性はない。
 - (3) 強い雨が降ると学区内に一部冠水する場所が見られる。中学校は洪水時・津波時、最大1m～3mの浸水の被害が想定されている。
 - (4) 女川原子力発電所からの距離が30km圏内のUPZ内に立地している。
- 3 本校が指定されている避難所等
 - (1) 津波・高潮・洪水・内水氾濫・土砂災害の緊急避難場所に指定されている。
 - (2) 災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、または災害により自宅へ戻れなくなった方が一時的に滞在する指定避難所となっている。
 - (3) 地域防災連絡協議会
釜小学校と合同で設置。学校関係者（含む生徒）、町内会、消防団、石巻市危機対策課等を構成員とし年間3回協議会を実施。

II 取組状況

1 地域や関係機関等と連携した学校防災マニュアルの見直し及び避難訓練の実施

(1) 地域と連携した学校防災マニュアルの見直し

本校で年間3回実施している「青葉中学校・釜小学校区地域防災連絡協議会」の中で、青葉中学校区4地区の町内会役員に、学校防災マニュアルを配布し、内容について意見をいただいた。マニュアルの分量が多いため、地域と関連のある部分に絞って学校と地域でマニュアルの共有、意見交換を行った。また、石巻市総合防災訓練等、地域の方との学習について代表生徒が感想を発表するなど交流を図った。



(2) 地域や関係機関と連携した避難訓練の実施

4月に実施した避難訓練において、地震・津波を想定した訓練を実施した。また、CS委員、PTA役員、学校防災アドバイザーの先生方などに避難訓練を参観していただき、訓練の様子について意見をもらった。避難訓練の評価については、宮城教育大学林田由那先生のご協力をいただき「PDCAサイクルを生かした避難訓練チェックリスト」を活用した。チェックリストを活

用することで、視点を明確にして評価していただき、今後の避難訓練の実施に有意義な助言をいただけた。



(2) 地域住民と合同での石巻市総合防災訓練への参加

11月に実施された石巻市総合防災訓練に全校生徒が参加した。生徒はそれぞれに役割分担し、避難誘導や避難者名簿作成、避難所の立ち上げなど地域住民と協力して取り組んだ。また、炊き出し訓練や初期消火訓練、応急手当訓練などにも参加し、地域の一員として積極的に活動した。



2 地域と連携した災害特性を共有するワークショップ等の実施

(1) 地域防災連絡協議会における防災ワークショップの実施

7月に実施した地域防災連絡協議会で、宮城教育大学林田先生を講師として防災ワークショップを実施した。暑い時期の熱中症対策をテーマにお話しいただき、特に高齢者が注意する点や事前の予防対策など具体的に説明していただいた。参加者にとって身近な話題でもあり、地域の方々と交流するよい機会となった。



3 教職員の災害対応力を養成する校内研修等の実施

(1) 過去の重大事故事例に学ぶ研修の実施

日本安全教育学会 理事長 戸田芳雄先生を講師にお招きして、近年の学校における重大事故について事例を挙げながら未然防止や事故後の対応についての内容を中心にお話をいただいた。生徒の安全を守るために、学校に求められている責任の大きさなどについて、改めて学ぶことができた



(2) 災害時の非常食の利用についての職員研修の実施

宮城教育大学林田先生を講師にお招きして、災害時の非常食についての研修を実施した。備蓄状況の確認や「保管のサイクルなどについてお話をいただいたのち、実際に非常食を準備し、試食した。実際に調理することで、より具体的に知ることができ、有意義な研修となった。



4 被災地訪問等を取り入れた児童生徒の防災意識を高める防災教育の実施

(1) 震災遺構の訪問（1・2学年）

震災当時について学ぶ学習の一環として、気仙沼市東日本大震災伝承館（1学年）、石巻市震災遺構門脇小学校（2学年）を訪問した。訪問した1学年の生徒は、震災当時の記憶が残っている生徒はほとんどおらず、旧気仙沼向洋高校の校舎見学では被害の大きさに驚きながら見学する姿が見られた。2学年でも、語り部ガイドの方々に当時の様子を聞きながら、自分たちの生活する石巻での被害について改めて気付くことができた。



(2) 地域人材を活用した防災学習の実施

地域の方々に協力をいただき、各学年で防災学習の時間を設けた。1 学年では地域の方を講師に招き、震災当時の学区内の被害についてお話をいただいた。また、その後に実施した学区内の復興・防災マップづくりでも、地域の方と一緒にまち歩きを行い、震災当時の様子を聞きながらマップづくりを実施した。2 学年、3 学年でも地域の方を講師にお招きし、防災講話を実施した。



Ⅲ 取組を通じた成果と課題

1 成果

- (1) 学区が震災で大きな被害を受けた地区ということもあり、地域の方々の防災に対する意識はとて高く、様々な取組に快く協力していただき、地域と学校が一体となった防災への取組を推進することができた。
- (2) 震災遺構を訪問する防災学習や職員研修は、実際に見聞きすることで、改めて防災の大切さについて考えることができ、多くの学びがあった。
- (3) 生徒対象のアンケートから

「命を守る行動を理解できましたか」 理解できた：70.0% 概ね理解できた：28.8%

「地域との協力は大切だと感じましたか」 大切だと感じた：71.3% 概ね感じた：26.3%

等すべてのアンケート項目で「よい評価」の回答が100%近い結果となった。1年間の防災学習の取組が、生徒たちにとって有意義なものであったことが見て取れる結果となった。

(3) 職員対象アンケートから

「実践を通して防災に対する意識は高まりましたか」 高まった：69.2% 概ね高まった：30.8%

「地域の方々と協力して学校防災に取り組むことは有意義でしたか」 有意義だった：76.9% 概ね有意義だった：23.1%など良い結果となった。2年間の実践校としての取組を通して教職員の防災に対する意識の変化が見られた。

2 課題

- (1) 地域住民との連携をより進めていくとともに、石巻市の防災担当部局との連携をより深め、学校、地域、行政が一体となった防災の取組を進めていく必要がある。
- (2) 震災から12年が経過し、中学校に入学してくる生徒たちも震災を体験していない世代となる。教職員も若い世代に入れ替わる中、震災の教訓を風化させず伝え続けていけるよう、これまで以上に体制の整備を進めていく必要がある。